

NO. 247

全 仏 4 / 54

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



花まつり

四月八日は釈尊降誕会、花まつりです。全国各地の寺院、幼稚園、地域仏教会による花まつりが行なわれることでしょう。

このところ年々盛んになっているようで、全仏で発行している「花まつりポスター」もひと頃にくらべますと非常に多く御利用いただいているのもそのあらわれでしょう。

よくクリスマスと比較され、仏教の花まつりは「若い人々の間によく理解されていないから盛り上げられない」というおしかりの声をよく耳にします。

いろいろと御意見はあると思いますが、花まつりを何とか一般の人々に正しく理解してもらいたいという願いは、仏教人共通の願いであります。日本仏教は各宗が時代と共にわかれ、それぞれの教義により布教活動を今日まですすめてきました。しかし各宗の布教活動を深めて行く課程で、釈尊の生まれた大切な心を忘れがちになっているのではないのでしょうか。

多くの仏弟子達により、今日まで伝えられてきた仏の教えを、もう一度釈尊誕生までさかのぼり、私たち仏教徒の生活を見なおす毎年の縁が、この花まつりの大切な心の一つだと思えます。

自からを社会のために力をねとせうとしない閉鎖的生活になっていないだろうかと考えるとき、花まつりに行く確仏の心を私自身、五体投地していただきたいと思うこの頃です。
(昌)

WF B 執行委員会(タイ)

決議文の実践などを審議

第十二回世界仏教徒会議が日本で開催されて以来はじめての執行委員会が、三月八日午前九時半から、タイ国バンコク市のWF B本部で開催された。日本から執行委員の全仏国際部長鎌田良昭氏が出席した。以下はその報告である。

委員会は、サンヤ会長代行議長のもとに、ブラソン・フンチョム(助言者)、クレーオン・フン(副会長)、プラサート事務総長、執行委員ミヤバラ・スナオ(米)、スタンレー・ウイリアム(スリランカ)、デー・テン・チュー(マレーシア)、鎌田良昭(日本)、プリアヤチュンチョム(財政主任)、マリカ・チャララク(事務次長)、小谷亀太郎(事務次長)、バンポト・ピラサイ(WF B事務総長)、オブサーパー

としてチューン・ツク・ヨウ(セラソゴール仏教会)出席により開会された。開会に先立って、サンヤ議長より、第十二回日本大会の成功に対し、感謝の辞が述べられた。またブーン会長の健康状態にもふれ、以前より回復され、毎週水曜には本部で署名事務にたずさわっていると報告された。

議 題
① 前回執行委員会議事録の承認の件
異議なく了承された。
② WF B大会宣言について
全センターへ送付されたが、文章の上には法論をつけるべきであろうとの意見があった。
また、大会決議案の実施については、

て開催されることになった。この会議は、WF B副会長、各委員長、執行委員の合同会議とすることが申し合わされた。
③ ルンビニー開発計画
献金の送り先は、すべてWF B本部へ送付し、WF Bのシンボルとした建造物を持つよう、ネパール側に要望すべきであろう。そして取りあえず、ネパール側ヘルンビニー現地視察の代表団を送るため、招待状の発給を要請する。現地へは執行委員と本部よりプリアヤ氏を派遣するということになった。

④ WF B加盟申請団体について
米 国サンボサ仏教寺院
在米韓国人仏教徒代表ハン・サンリー氏が建立し任職をしている寺で、財政的にも良好なので承認してはどうかとの結論となった。
以下三団体は承認された。
インド シロン仏教会
同 ラダック仏教寺院
同 全印度、ヒマラヤ地区仏教指導者委員会
なお、バンクラディッシュム仏教会の加

これらを過去の大会にさかのぼって、いかにして実施すべきかを協議すべきことが提議され、今年十二月一、二日の両日バンコク市の本部に

④ 入は諸般の事情により見合せた。
第十三回WF B大会
サンヤ氏が組織委員長となって、十五部門の委員会が組織され、すでに実施している。会期は、明年十一月中に九日間開催される。開会式はバンコク、閉会式等はチェンマイで行われる。
テーマは、各センターより送られるよう要請する。正式代表三名、オブサーパー三名の滞在費、宿泊費は、タイ本部が負担する。仏旗の高降納、大会宣言又は実現したい。

⑤ スリランカ台風禍
各国より見舞金が寄せられているが日本より、総額九十万円が送られていることも報告され感謝された。
⑥ 仏像について
日本の松坂節三氏(彫刻家)より、日タイ親善の目的で、一対大の釈尊座像をWF B本部の中庭に建設したいとの意向は、タイ側の意志として歓迎されていることが確認された。またスコタイに建設したいという十対大の仏像の意向についても、日本側より述べられ、素晴らしい計画であると高く評価されたが、これについては、また検討の余地があろう。

委員会は、正午にサンヤ委員長の謝辞があつて閉会となった。ついで十二時半より、階下食堂において、本部主催による昼食会が開かれたが、ブーン会長も元気な姿を見せ、各執行委員と歓談した。

来年秋にタイで第13回大会

第十三回世界仏教徒会議タイ大会は、昭和五十五年十一月(日時未定)にバンコクとチェンマイで開催されることが同大会を主催するタイ仏教会より公表された。

この発表によると大会は九日間の予定

で、前半の開会式(またはバンコクで行ない、チェンマイまではバスにて途中の観光を兼ねて寺院参拝などを企画、チェンマイでは各種委員会と閉会式を行う。すでに組織委員会と十五部門からなる委員会が実動に入り準備をすすめている

一般消費税と宗教法人

文化庁宗務課課長補佐 渡部 蒞

政府の税制調査会(小倉武一会長)は昭和五十三年九月、「一般消費税特別部会報告」の形で一般消費税の具体的な導入に関し試案を公表した。この試案の公表後、各方面からの意見等を検討したうえ調査会は昨年来、その答申をした。この答申の趣旨を受けて政府の税制改正要綱においては、「一般消費税については、昭和五十五年度中に実現できるように諸般の準備を進めている」こととしている。

一般消費税とは、消費財、サービス財を課税の対象とする租税の総称であつて、調査会答申の一部である一般消費税大綱によつてその概要をみると、(一)課税対象①国内において事業を行う財貨の引渡し及びサービスの提供、②財貨の輸入、(二)納税義務者①国内において事業を行う者及び輸入を行う者(年間売上高一〇〇〇万円以下の小規模零細事業者を除く。)(三)非課税の範囲①公共法人等、非課税取引等、④課税標準①国内において事業を行う者については売上高(他の消費税の額を含む。)とし、輸入を行う者については輸入の際の引取価額(関税、他の消費税の額を含む。)(四)税率①五%の単一税率、となつている。

一般消費税を導入するかどうかにかた

つては、税負担の公平確保、歳出の節減、合理化、税負担の逆進性、他の増収手段、物価との関係等からこれまですでに各方面で一般的に議論されてきているが、特に公益法人のひとりとしての宗教法人の立場からこの仕組みをみると、第一に、宗教法人の営む収益事業以外の事業は非課税になるが、この収益事業の範囲がどのようになるのか、特に墳墓地の貸付業の取り扱い、第二に物品税においては、特定の場合において宗教法人が購入しその用に供するピアノ及びオルガンが非課税となつているが、一般消費税を導入するに当たつても宗教法人の活動に関し非課税取引等とすべきものが考えられるかどうか、第三に関税法第一五条は関税の非課税の場合の規定であるが、これと同様の事例において一般消費税が課税されるのかどうか、などが現在の税の制度との関連から検討が加えられてよいのではなからうか。

ここでは限られた紙数なので個々についで具体的に述べる余裕はないが、今後、この一般消費税の仕組みとその導入時期に関し、どういった展開をするにしても、宗教法人の側にあつては宗教法人を隠れミノとして脱税しているとの一部風評を

除く努力するとともに公益法人たるの「実質」を高めるべきものであろう。そして同時に宗教活動が社会においてその有する機能が積極的に評価されるものとするならば、その非課税の範囲は単なる税のしくみ、増収の手段の問題としてのみ論議されるだけでは不十分であらうという感じを免れえない。一般消費税の導入に当たつても宗教法人の存在意義、活動を考慮して議論がなされるべきものと思われる。

税対策を検討

一般消費税の検討が関係官庁間でなされ、宗教法人に関わる問題点が向われる現状において、全仏事務所では早急に対処すべく、三月十六日午後一時より組織局を中心に会議を開き、これらの問題に対する対応の方策などを検討。慎重にこの問題に取り組むため、近々第一回目の特別税制委員会を開催する。

東京都知事選

全仏推薦候補

鈴木俊一 68歳 自公民推薦



①日本仏教鎮仰会 眞理運動本部、世界平和同願会②東大法学部卒、内閣官房副長官、東京都副知事、万博事務総長

お寺に仏旗をかかげよう

大 150C—よこ 247C ¥13,000円 小 70C—100C ¥3,000円
中 90C— 135C ¥5,000円 手旗 35C—50C ¥1,500円

別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

〒111 東京都台東区西浅草1-5-5 電話03・843・6341~3

法輪バツチ

径1cm、ネジ式 ¥一、〇〇〇円

全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き ¥一、五〇〇円

ドイツにおける宗教の現状

(WFB日本大会・四国地区の講演から)

ドイツ仏教会会長 マックス・グラシヨフ

ご紹介いただきましたマックス・グラシヨフです。私達は皆様がご存じのように、ほとんどの人がキリスト教の信者でありますドイツから、第十二回世界仏教徒会議に仏教徒として日本にやってきました。

キリスト教の教義

日本は初めてであります、日本の美しさとともに、人々の思いやりの心に感銘を受けております。また本日は鳴門のみなさまに心温まるご招待をうけ感謝申し上げます。

本日は「ドイツにおける宗教の現状」というテーマでお話ししたいと思います。まずキリスト教の基本的な教義について説明したいと思います。

それはあらゆるものを創造し、あらゆるものを支配する全知全能の神があるという仮定に立ち、その神はあるときは報酬を与え、あるときは罰を与える。また人間が死んだあとどこに行くのか——天国へ行くのか、あるいは地獄へ行くのかわるか——ということをその神が決定してしまっているわけです。そこで神を信じて従うような生活をしなければなら

いということ、これがキリスト教の基本的な教えです。

また十戒と呼ばれるキリスト教の戒律は、ちょうど仏教の戒律のようなもので、善いことを勧め、悪いことを止めさせるという目的を持っています。その点ではキリスト教は西洋では非常に救済的な影響を持っているといえます。しかし、この戒律は仏教の戒律と違って、人間が自由に取りはかることができず、神によって命ぜられ、それによって賞罰を科せられるという性格を持っています。そして、神によって神を信じる人がそれに従うということによって守られています。これらのことに多くの人は疑問を抱くようになってきました。

若者に不信の傾向

これらの人々はキリスト教に対する信頼を失い、他の宗教に真理を見つける努力をし、特にこの傾向は若い人たちに著しく、沢山の異った宗派が、これら若い人たちの心を捕え始めたのです。アジアを中心に、特にインドから入ってきたもので諸々の問題がおこってきており、このような事柄がドイツにおける宗教の現

状であります。

このような現状の中で、またキリスト教が主な宗教であるヨーロッパで、私がどうして仏教徒になったかということもわかりたいなだけだと思います。

仏陀の教えに出会う

私はキリスト教や他の宗教やドイツの哲学に疑いを持ち始めたあとに仏陀の教えに接するチャンスを得たのです。そのときは稲妻に打たれたかのように、これこそ私が常に求めていた教えであると知りました。仏陀の教えは私に存在の関係を水晶のように明るく示してくれ、人々は苦悩から解脱するため何を知らねばならないかということを教えたのです。

皆さんは仏教の世界に生まれ、仏教の環境の中に住んでいますので、子供のときからこの高貴な教えの中に育って行くということが如何に大きな意味を持っているか、如何に幸福であるかということに多分お気づきにはなれないと思えます。私達にとっては、長い研究のあとにこの立派な教えの中にすすんで行ったのです。

ドイツにおいては、仏教は初め学者によって知られるようになり、彼等がドイツ語によって翻訳し、その後スリランカ、ビルマ、タイから僧がやってきたりそれらの国へドイツからも行きました。そして瞑想に対する要求が高まるにつれてアジアの仏教国より様々な人々が来ました。日本からも神の僧侶がこれ、私

ちに神による瞑想を布教しました。

今日では仏教徒だけでなく、多くのカトリック修道院でも、この種の方法がとり入れられています。また多くのカトリック僧が勉強のため日本へ行きます。数年前からチベットのラマ僧もきて、チベットのな仏教を移入すべく努力しており、多くの若者をひきつけています。

ドイツ気質に合致

以上のように仏教というものは、教義に伝えられるような形で理解された時にいえると思えます。しかし仏教がさらにひろまるとすれば、それは東洋的なものでなくヨーロッパ風の形で発展しなくてはならないと思えます。そしてこれこそが、三年前に創られたヨーロッパ仏教徒協会の目的でありました。そして私たちはこの目的にしたがってヨーロッパの国々で活動を共にしているわけです。

本日は熱烈な歓迎をいただきました。ことにありがとうございます。これをもちまして私の講演を終らせていただきます。ありがとうございます。(以上は第十二回WFB日本大会の四国地区大会の開催された鳴門市市民会館において、同氏の講演を収録したものであり、鳴門仏教会の機関紙「仏教なる」とを参考にいたしました。なおグラシヨフ氏はWFBの副会長でもあります。)

ガンダーラを訪ねて

東京ブディストクラブ 山田 一真

数年前より、私たちのクラブである東京ブディストクラブにて、仏教の源流、シルクロード、仏跡などを巡拝、勉強しようとの計画が考えられていたが、クラブ員みな第一線で活躍する時代となり、長期間不在にすることも出来ず、また、中近東、小アジア地方の情勢不安もあってなかなか実現できなかったが、昨年の

WPB大会も終り各地に法友もできたことであり、とりあえずガンダーラを中心に十日間の行程を作り、二月十二日、新東京国際空港（成田）より十五名のメンバーにて出発した。
二月十二日（月）午前六時三十分、東京シティーターミナルに集合、冬にしては暖かな朝で南方に行く服装でもがまん



上はジュリアン僧院の跡と下は北京空港のターミナル前

.....
できるのには助かった。日本航空のカウンターでチェックインをして身軽になり、空港バスにて成田空港北ウイングに到着、午前十時発のパキスタン航空七五三便に搭乗する。使用機はボーイング七〇七であるが、どこかの航空会社の私下げ機か、リースされているものと思われる色彩感覚の違いか、何となくうす汚れ、座席などもネジ一本が不足という感じである。
北京經由ラウルペンディイ・カラチ行きで距離的には最も近いコースをとるのであるが、北京行きの乗客がほとんどという感じである。定刻十五分遅れにて離

陸、鹿児島上空より九州を横断して黄海に出る。約三時間半後に大陸に入り、午後二時三十七分（現地時間・日本との時差一時間、日本時間三時三十七分）北京空港に到着する。

気温摂氏七度。曇。約一時間ほど休憩で空港ターミナル内へ、他の空港と違って古い重厚な建物で玄関から外へも出られるし、出入り自由に歩き回る。売店では現地貨幣でないとも買えないが、さしてこれというものもない。半分以上の乗客が降りてしまい、新たな乗客もあつたが、六分ぐらいの座席で飛びたった。広大な大陸を日を追って飛び続ける。

初めてのコースであるために、どこを通っているのかわからないが、黄河、ゴビ砂漠、タクラマカン砂漠を経てカラコルム山脈を飛んで、私たちの目的地パキスタンのラウルペンディイに午後七時（現地時間、日本との時差四時間三十分）到着する。成田を出て約十三時間である。気温摂氏十三度。

ラウルペンディイ空港は、パキスタンの首都イスラマバードの玄関口で古い都市であり、首都イスラマバードは、新しくこの近くの山野を開いて、新しい都市を造りつつあるので、よくブラジリアと比べられている。二台の小型バスに分乗し約二十分、イスラマバードの大使館の建ち並ぶ通りの近くのホリデーインに第一夜を宿ることになる。

一日各部屋に入って午後九時より食事である。時差を考えると夜中の一時過ぎになるのだが、この間早朝より機内食の

二回のみであるからお腹のへったこと、夢中で食べる。パキスタンは回教国であることと数日前より宗教的習慣によってアルコール類は一切だめということ、ビール、ワイン一切なしの食事である。アルコールなしはパキスタンを出るまで続くことである。

二月十三日(火)午前七時三十分のモ一ニングコール、昨夜は現地時間午前十時が日本の午前二時過ぎになるから食事を終ってすぐに寝ついてしまったとみえ、朝はモーニングコール前にはみな起きていたようだ。健康的なことである。カメラマン(8ミリ)と録音担当の二人は早朝の街の風景を早速取材、ついに小学校の朝礼風景から、先生方のインタビュ、児童たちの歌までとって来た。

朝食は八時三十分から、みな元気で、いよいよ巡拝に出かける。この日の行程は、イスラマバード市内、ジュリアン僧院跡、シルカップ(古代ギリシャ人の

街、タキシラ博物館、アトック峠を經由してペシワールまで、二台の小型バスにての旅となる。

この地方の昨日の気候は、最高十七・二度、最低五・三度の気温で朝夕はセーターぐらいが必要で日中は大変しのぎよい。ホテルより約三十分でタキシラ村に着き、しばらく走ると右側に丘陵が連なり街道より、その麓へと道をとる。

小高い丘の頂きに僧院跡があり、ジュリアン・サイトといわれている。この付近にも多くの寺院が最盛期にはあったことが知られているが、その一つで一九一八年にイギリスのサー・ジョンズ・マールによって発見発掘され、ストウーパの周辺に奉獻塔が多くあり、説明によると二二十四の塔、百九十七の僧房があったといわれている。現在はパキスタン政府の保護の下に石積も復元され、管理官もいて説明などもしてくれる。(つづく)

スリランカ 台風救援金

第二回分を手渡す

三月号掲載のとうりスリランカ台風禍に対する救援金は、全日本仏教会より第一回分として拾万円を在日スリランカ大使を通じて、現地大統領官邸へ送付したが、三月八日にはWFB執行委員会の開かれたバンコクのWFB本部にて、同委

員会へ出席した全仏・鎌田国際部長よりスリランカの執行委員スタンレー・ウィリアム氏に、第二回分として日本仏教会よりの寄金八十万円が手渡された。この救援金は同氏より、スリランカ仏教会のアルバート・エディリシンゲ氏を

通じてスリランカ大統領に渡される。なおウィリアム氏は、このような日本人の温かい心に感謝し、一日も早く元の生活にもどれるよう努力すると語っていた。ここに誌上をかりまして救援金を寄せられました方々に厚くお礼申し上げます。

スリランカ救援寄金

- 拾四万七千八百八十円 長谷寺仏教婦人会
 - 四万三千元 正行寺仏教婦人会
 - 二万円 遠山雅実
 - 一万円 雲井昭善、橋爪良幸、赤尾伸江
 - 五千円 徳岡亮英、新井茂宏、西福寺
 - 三千円 飯塚常夫
 - 一千五百円 釈全教
 - 一千円 小栗弘平
- 【日蓮宗スリランカ訪問団】
- 二万円 中野顕文
 - 一万円 持田貫宣、早水日職、越塚裕規
 - 山田朝亮、小川道也、杉本勝哲
 - 糸久宝詮、藤上勝仁、中野芳枝
 - 高倉勝貞
 - 五千円 田中本隆、戸部宣朗、沢田光雄
 - 指田喜久重、渡辺敬一

「仏教文化講演会」

栃木県仏と輪
王寺の共催で

第十二回世界仏教徒会議日本大会を記念して、三月三日午後一時より、宇都宮市の栃木会館小ホールにて、栃木県仏教会と日光山輪王寺が主催する「仏教文化

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

講演会が開催された。

「混迷の世に、自分自身を失わず、たしかに生きる道を考えよう」という呼びかけのもとに開かれ、一時より開会式が行なわれ、塚田賢照副会長の開会の辞のあと主催者を代表して輪王寺・柴田昌源貫主(県仏会長)が挨拶。つづいて全仏浄土正浩事務総長が挨拶し講演にはいった。

早稲田大教授・仁戸田六三郎先生の講演は「未来を開く智慧」と題し、仏教は信じようと思いまいと日本人の生活、習慣の中に長い伝統として残っている……と独特のユーモアをまじえて熱弁をふるわれた。また作家の瀬戸内晴美先生は「釈尊と女性」と題し、出家した動機などを

全仏ロビー

花まつりは、またの名を権仏会、仏生会、浴仏会、龍華会ともい、四月八日釈尊の降誕を祝して行なう法会を言います。

釈尊の降誕の時、龍が天から降りてきて香湯をそそいだという伝説によって毎年四月八

日に誕生仏に香湯、五色水、甘茶などを頂上からそそぎます。

中国では四世紀頃から行なわれ、七八世紀ごろから行事として広く行な

花まつりの歴史

われるようになったと言われておりま

す。

日本では、推古天皇十四年（六〇六年）に元興寺で行なわれたのが最初で

あり、承和七年（八四〇年）に宮中で行なわれた後に、一般の寺院、神社にも普及し、現在に至っております。

南方アジアのスリランカ、ビルマ、タイ、ベトナムなどでは、ウェーサーカ月の満月の日（太陽暦の五月十五日から十七日のころにあたる）に盛大に行なわれます。（中村元著仏教語大辞典より抜粋）

まじえ女性の心の内にすむ願生心なほに ついて、女性らしい細やかな講演であり、会場一杯の聴衆は両講師の話しぶりに聞きいっていた。

特に今回の講演会は若い人々の参加が多くみられ注目され、参加者の声も「たいへんよかった」・「また聞きたい」など好評であった。

国際専門委員会開く

国際専門委員会（柳了堅委員長）は三月十二日午後二時より、全仏会議室において開催され、安本国際文化局長挨拶のあと、柳委員長を議長に次の事項について協議した。

一、ルンビニ復興への協力について

議事に入る前に、過般ルンビニを視察した佐藤良純委員より詳細な報告がなされた。ついで議事に入り、WFB本部よりの一ドル献金の要請にもとずき、この協力等をどう取り計らうべきか審議された。

イ、継続的事業であるので趣旨に賛同する。

ロ、ルンビニ復興協力準備委員会（仮称）を結成するため、広く僧俗を包含した委員で充分検討する。

ハ、政・財界の人々とも接触した上で意義ある結果をみるようにしたい。

一、WFB執行委員会報告

三月八日開催のWFB執行委員会出席の鎌田国際部長より報告された。

一、その他

①第十三回大会は昭和五十五年十一月にタイ国のバンコクとチェンマイで開催される。

②タイ高僧一行が三月二十七日に来日するので、全仏として表敬訪問する。

③日タイ親善旅行の実施についてはWFB日本大会記念として秋に予定。

④WCRP世界大会が九月二十七日よりニューヨークで行なわれ、全仏代表も参加予定。

⑤国際専門委員が「世界の仏教」のテ

ーマのもとに、夫々の専門分野にて執筆し全仏誌に寄稿してもらおう。とりあえず五月号に佐藤良純、六月号に奈良康明、七月号に伊藤堅純の各委員さんに依頼する。

その他諸報告等があつて終了した。

（出席委員）柳了堅、長田順海、佐藤良純、織内七郎、奈良康明、山口貴美子、伊藤堅純。

事業計画など協議

—文化専門委—

全仏の文化専門委員会（真保義貴委員長）は、三月八日午前十一時半より、浅草「飯田屋」にて開かれ、安本国際文化局長の挨拶のあと、委員長欠席のため摩尼委員を議長に選出して、昭和五十四年度文化事業計画について協議した。

一、文化会議について

第十二回日本仏教文化会議については八月下旬開催を予定しているが、今年はまだ、承和七年（八四〇年）に宮中で行なわれた後に、一般の寺院、神社にも普及し、現在に至っております。

第七回平和のための宗教者研究集会

世界宗教者平和会議日本委員会では、本年八月ニューヨークで開催される第三回世界宗教者平和会議への問題提起および事前研究会を兼ねて「第七回平和のための宗教者研究集会」を、三月十六日、十七日の両日、比叡山・延暦寺会館を会場に開催した。

この集会は宗教宗派の壁をこえて一堂に会し、「世界共同体を志向する宗教」を

国際児童年にあたり、また青少年の自殺が続発する現今の社会情勢を考え、現実の問題として「生命尊重」を取りあげてもらおうと文化会議運営委員会に申し入れ、子供の問題などに問題をしぼって考えてもらおう。

二、仏教映画の夕べについて

期日、内容などについて三十四名の委員で検討する方がよい。会場としては浅草公会堂、日経ホールなど敷力所が候補地としてあげられたが、これも内容や人員、対象などと一緒に担当委員に二任して検討してもらおうこととなった。またフィルムのリストを早くつくるよう要望が出された。

その他に僧の自覚の問題や東南アジアの状況などが話し合われた。

（出席委員）摩尼清之、白川良純、島田喜久子、塩入亮達、神原帰逸、井上日安、宝田正道、堀秀之、河原辰晴、若林隆光

テーマとして、五つの研究部会に別れて
卒直な意見交換を行なった。
第一日目は全体会議Ⅰで町田宗夫全
理事長が議長となり開会式と合せて行な
われた。全体会議Ⅱは問題提起、全体会
議Ⅲは提起と質疑応答が行なわれた。
第二日目は五つの研究部会にわかれて
討議がなされ、その後各報告やまとめ
が行なわれて閉会となった。

◆掲◆示◆板◆

沖繩県仏教会では役員改選
を行ない田原惟信会長に替り、新会長に
藤井深忍師が選出された。
姉妹市仏 長岡市仏(新潟)と鳴門市
仏(徳島)の姉妹関係については、その
後両市仏で話し合われ五月には姉妹仏教
会が誕生する予定。

〃管理者研究協議会〃

文化庁の主催する「昭和五十三年度包
括宗教法人等管理者研究協議会」は、三
月六日午前十時より東京・国立教育会館
大会議室において開かれた。
大丸文化庁長官と篠田日宗連理理事長の
挨拶につづいて、日程説明などが行なわ
れ討議に入った。

研究協議Ⅰ「宗教法人の組織について」
は公告制度や議会議決などについて話し
あわれ、板橋育成師(智山派)が司会者
をつとめた。Ⅱ「宗教法人の事業につい
て」は、社会福祉活動や法人事業につい
て討議がなされ、そのあとフリートキー

昭和五十四年四月一日発行
四月号 第二四七号

ンクが行なわれ、四時半閉会した。
全仏関係出席者―大沢自聚(醍醐派)
市橋真弘(御宗派)、長谷川靈信、前田達
現(念法真教)、勝部定昭(浄土宗)秋庭
稔(時宗)、釈昇龍(妙心寺派)、川口善
教(本門流)、山下通雄(本門法華宗)、
竹内清岳(本門仏立宗)、池田為輝(中山
寺派)、四宮正音(孝道)、

岩本 勝俊師(元全仏会長)
三月七日、心不全のため遷化、八十四
歳。密葬は十日に行なわれ、本葬は秋の
予定。最乗寺住職等を経て昭和三十三年
大本山総持寺副貫首、四十二年より五十
二年まで貫首、四十五年から四十七年ま
で曹洞宗管長をつとめられ、この間に全
日本仏教会の会長に就任された。

事務総局録事 (三月)

- 三日 栃木県仏の仏教講演会出席
- 六日 宗教法人研究協議会出席
- 七日 日宗連理事会
- 八日 文化専門委員会
- WF B 執行委員会(タイ)
- 十二日 国際専門委員会
- 局内会議
- 十六日 WCRP 研究会出席
- 二十七日 仏教伝道賞授賞式出席
- 黒田白純師本葬参列
- ネパール大使送迎会出席
- 二十九日 税制対策特別委員会
- 三十日 タイ高僧表敬訪問

発行人 鮎 正 浩
編集人 安 本 利 正
発行所 財団法人
全日本仏教会

—夏におくる海外旅行—

- 7月23日発 11日間 秘境小チベット・ラダックの旅
- 7月30日発 10日間 スリランカー一周とペラハラの祭り
- 8月9日発 14日間 インド・ヨガの旅
- 8月17日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅
- 8月20日発 11日間 インドの魅力を探る旅
- 8月24日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅

この他、仏跡参拝団などの団体旅行のご相談も
お受けいたしております。海外旅行のことなら何
なりとご相談下さい。

—詳しいパンフレットご希望の方は下記まで—

当社作成の「仏跡参拝」の小冊子をご希望
の方は無料でお送りいたしております。ハガ
キでお申し込み下さい。

取扱旅行会社
運輸大臣登録一般第154号
株式会社 子代田トラベル
東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話 407-3612 (代表)
400-5100
郵便番号 107

—デラックス 13日間—

ヨーロッパと禅の心

期日 昭和54年5月23日(水)~6月4日(月)

パリ、モンパルナスの仏国禅寺、アパロンの大乗禅寺に
弟子丸泰仙老師を訪ね、参禅に励むフランス人達と友好を
深めた後、2コースに別れてヨーロッパ最高の季節を楽し
みながら、各地を観光する素晴らしいヨーロッパ旅行です。

- Aコース：パリ〜アパロン〜ニース・カンヌ〜モナコ〜ビ
サ〜フィレンツェ〜ローマ〜東京
 - Bコース：パリ〜アパロン〜チューリッヒ〜インスブル
ック〜ザルツブルグ〜ウィーン〜東京
- 参加費用 Aコース 550,000円
Bコース 557,000円

—特別企画 中国友好の旅—

6月13日出発(15日間) 一余席若干有—

コース：広州〜成都〜西安〜上海〜東京

参加費用：425,000円

東京都台東区西淺草一ノ五ノ五
電話 〇三(八四三)六三四一
三